

令和5年度 第2回 佐久市立近代美術館協議会 議事録

日 時 令和5年11月21日（火）午後3時00分～午後4時40分

場 所 佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者 教育長（途中退席）、社会教育部長、委員5名（欠席5名）、
事務局5名

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

進行：臼田職務代理

（1）令和6年度事業（案）について

事務局：（1）説明

（2）18歳未満及び高校生以下観覧無料について

事務局：（2）説明

委 員：展覧会を開催する際の広報は、学校などを中心に行っているのか。どのようなところに対して広報しているのか教えて欲しい。

事務局：広報の予算や方法は限られている。ポスターやチラシは市内の公共施設のほか、県内の美術館や博物館、図書館、公民館に加え、近隣県の美術館や博物館に送付している。他にも、佐久市周辺にある、美術関係でご協力いただいているお店に対しても送付しており、ポスターなど貼っていただいている。学校関係については、ポスターの掲示のほか、特別なイベントがある際にチラシを出すこともある。しかし、学校はそうした広報が数多く届くため、まとまった情報誌などを出す際にお願している。

委 員：若い方が無料で観覧できるのは素敵なことだと思う。前回の協議会で、チラシデータをそのまま SNS に掲載しても良いのではないかという話

をしたと思うが、若い方に来てもらうために、ハッシュタグなどを（美術館側で）作っておけば、来館した若い方たちが各自で SNS にアップしてくれて、お金をかけない広報活動になるのではないかと思う。今作っているものの応用で、無料で使えるオンラインのプラットフォームが何かということをもう少し考えても良いのではないかと感じた。アカウントは作ってはいけないのか。

事務局：前回紹介したかはわからないが、正式なものを作るには障害がある。しかし、非公式に「いちじくん」というキャラクターが X (旧 Twitter) を行っている。

委員：アカウントの名前はなにか。

事務局：「いちじくん」。これは、あくまで非公式のため、美術館の内部のことを写真に撮ってはいけないという制約はある。しかし、自由に広報できる場として少しずつ使用している。

委員：正式なアカウントを作るには、何が障害となるのか。

事務局：文章をチェックする体制、情報を発信する体制がとれないということだと思う。SNS はスピードが重要な要素になってくると思うが、組織の中でチェック体制が難しい。

委員：チラシを掲載するというだけを見ても、若い方は Google 検索などは使わず、TikTok で検索するというような状態だと思う。そういう世代に無料で観覧できるということを広報するのであれば、そうした手段を用いる必要があると思う。

委員：佐久市内の各学校に対して、美術館から案内は出しているのか。

事務局：各学校に対して、ポスターとチラシを 1 枚は送っている。児童生徒一人一人に行き渡るものとしては、教育委員会が発行している情報誌があり、それに情報を掲載してお知らせするという方法がある。それに加え、もっとたくさん来て欲しいときや主要な事業を行う際には、単独でチラシを作り、それが児童生徒それぞれに行き渡るようお願いしている。

委員：例えば、小学生の場合は子供たちだけではなかなか美術館に来られない。やはり、大人に認識がないと来られないため、例えば学校で美術担当の教員が「こういう展示がありますよ」など紹介してくれると興味が沸くと思う。また、高校の場合は美術班がある。そのため、美術の教員に対して積極的にアプローチしても良いのではないかと思う。ポスターだけ見ているとなかなか足が向かない。そこに、一押しがあると良い。ポスターだけ見ていると良いなと思っても足が進まなかったりするが、そうした場面で(美術館に対して)意識を持っている教員がいて、「こういうのがあるんだぞ」など言ってもらえると子供の心が動くと思う。そのため、そうしたところに積極的にアプローチできたら良いのではないかと思う。

委員：18歳未満及び高校生以下観覧無料ということがあまり知られていないと思う。ポスターなど色々企画があり、下の方に小さい字で書かれてあってもあまり見ない。佐久市の広報などでも「高校生以下観覧無料」ということを書くと良いのではないか。話が変わるが、以前区長から招待券をもらったことがある。他にも、人から招待券をもらって観に行ったこともあった。無料ということをもっと宣伝しても良いのではないか。

事務局：以前はチラシの中に小さくしか18歳未満及び高校生以下観覧無料と書いていなかったが、そういったご意見を伺い、最近ではポスターの中に丸で囲って書くようにしている。また、各区長には区内ポスターの掲示をお願いしており、そのお礼として招待券を渡している。その券を使用して観覧する方も多くいる。

委員：LINEで情報を流すということを行っているのか。友人がクラウドファンディングの情報を佐久市のLINEで見たと言っていた。

事務局：佐久市のLINEがあり、広報広聴課に情報提供すると、そこから(広報広聴課が情報を)選んでLINEに掲載される。

委員：(情報を)全部出してくれないのか。展示が変わるときなど。

事務局：(広報広聴課に)確認したところ、毎日たくさん情報があるわけではな

いため、(提供された情報は) 流れているはずだという返答をもらった。私も確認してはいないが、展覧会の情報も流れていると思う。広報広聴課と話して、また情報を流してもらうようにしたいと思う。

委員：開館時間は美術館の条例で定められているのか。

事務局：佐久市立近代美術館条例によって定められている。

委員：1ヶ月に一度レイトナイトを行ってはどうか。デートのついでに寄れたら良い。ミュージアムデートって素敵だと思う。

事務局：今年4月、校長会に文章を一通送付した。そこに、18歳未満及び高校生以下観覧無料の旨を記載した。他にも、美術館での見学会の開催や授業に対して美術館が協力できることがあればお声がけくださいという内容を記載した。校長や美術の教員に対してメッセージとしては出している。しかし、学校側も難しいという状況がある。第一に、美術館まで歩いてこられる学校がほとんどない。近いところでも1時間くらいはかかる。バスの手配を考えたとき、実際に手配を行うのは学校の教員となり、多忙な中で現実的ではない。私としては、今(市内文化施設の)館長同士で、一度は文化施設に見学に来る機会を作った方が良いということをお話しており、社会見学などの場面で市がバス代を出すというかたちが作れないかと思っている。小中学校の児童生徒が団体で見学に来るという機会を作ることが一番良いと感じており、どこかにそういう糸口がないかと探している。今まで(団体で)来られていないというのにはそれなりの理由があると考えられるため、その理由を現在探っているという状況である。何もやっていないというわけではないが、時間がかかる。

委員：先ほどの話だが、例えば夏などに1日くらい時間外にイベントをやるなど、美術館に集結できるような催しができないか。楽しいことをやると子供たちも興味を持つのでは。条例で16時半(実際には17時)と決まっているのはわかるが、1年のうち1日といったかたちでまずは実施できないか。

委員：働いていると時間を作るのが難しい。

委員：イベントに協力してくれる人も出てくるのではないかと。楽しみをみつけていただきたいと思う。

事務局：今後、できるかどうか検討していく。
今回の議題になっている18歳未満及び高校生以下観覧無料については継続で良いか。

委員：良い。

(3)「佐久市立近代美術館」再構築に関する市民アンケート調査について

事務局：(3)説明

委員：中には、詳しく回答したい人もいると思う。その方たちには、人数で区切るのではなく、アンケート調査を行った方が良いのではないかと。

事務局：非常に関心が高い方もいるということはわかる。1,000人というのは、佐久市が市民アンケートを行うときにお願いしている数で、統計学的にこれくらいの規模なら意見を募るのに良いとされている。また、このアンケートとは別に、回答したい方が回答できるようなアンケートを実施するかについては検討したい。全世帯に配るのではなく、インターネットを使用するといった方向性にはなると思うが、検討していく。

事務局：アンケートの設問項目等についての意見をいただければ有り難い。

委員：建て替えということもあり得るのか。

事務局：現段階の可能性としては何でもある。しかし、建物があるため、個人的な気持ちとしてはこれを活かしてというところがある。金銭面の問題、人の問題もある。例えば問13は私が考えた設問で、美術館に必要な事業として法律で定められている事業を記載した。これを市民の方が見たときに、美術館にどのような事業を行ってほしいかということと何をやらなくてはいけないかということの差が見られるのではないかと考えた。例えば5番のデジタル化については、改正博物館法によって新たに増えた事業である。本来の美術館では、資料管理のためには必要だが、観覧のためには必要ない。ただデジタル化があれば、調べものが抄

るというメリットがある。

委員：美術館にコーヒーやお茶を飲む場所があれば自然と人が集まってくると思う。美術が好きな人達が集まって、作品を見て、お茶して、そこから何か生まれる可能性もある。こうしたことを事業としてできるならば、「カフェのような場所があったらどう思いますか」という項目を設けたり、例えばスペースがある場合には「ポップアップスペースみたいにこの場所を利用する人がいると思いますか」という項目を設けたりしても良いと思う。予算はかかるかと思うが。スペースの提供などで美術館を外部の方たちが利用してくれることによって活性化したりすることもあるのではないか。佐久穂かどこかに最近貸しキッチンができて、曜日ごとに入るお店が異なっていたりする。そうしたことができれば、活気を戻したり、人を呼んだりということに繋がるのと思う。そのため、外部使用が可能になるような質問を設けたら良いのではないか。

事務局：「こういう施設があったら良いか」という設問ではなく、「あったらどう利用しますか」という設問にするということか。

委員：前回の協議会で、佐久市には作品発表の場を求めている人が多いという話を聞いた。例えば六本木の国立新美術館の一部分は貸会場となっており、一般の方が作品を発表する場として活用している。そうした場があると制作の励みにもなる。こうした場をローカルで、例えば書道の人たちの週があり、参加者がそれをアレンジしていくということがあれば喜んで来館し、参加するかもしれない。そうした利用が可能になるような設問やそうした意見が聞けるような設問が設けられると良いのではないかと思う。

委員：創造館にレストランがあったが、あれはいつの間に撤退したのか。例えばこの敷地内にレストランなどを設けるとなった場合、どのように土地を借りて行うことになるのか。テナントとして、例えば美術館のどこかを借りてやるということになるのか。

事務局：方法としては色々ある。例えば市が直営的に行う場合、民間業者に委託

して行う場合などがある。委託の場合は、いわゆる一本釣りで直接お願いするわけではなく、公募で最低料金を定めて募集するという方法が考えられる。例えば自動販売機は募集して設置してもらっている例である。市の食堂も、公募で入っていただいている。物販などについても、そうした方法も考えられる。

委員：前回の協議会でも話したが、小諸高原美術館で版画の展覧会を毎年開催している。近年、小諸高原美術館の前に市内の業者が入り、素敵なレストランを作った。これによって若い方の来館も増え、来館者が倍以上になった。このように、全く新しい管轄のところをお願いできれば、また新しい違った展開が加わるのではないかと思う。

委員：現在、美術館では視聴覚室を貸しギャラリーとして提供しているが、美術館の都合に合わせて借りなければならず、使いづらいという話を知人から聞いた。アンケートに貸しギャラリーについての設問を設けるのであれば、借りやすいシステムを作る必要がある。「貸してやる」ではなく「借りてください」という意識でやらなければ、アンケートの意味がない。

事務局：例えばアンケートの設問を、「貸しギャラリーは必要ですか。あつたらどのような使い方をしたいですか」といった書き方にして、結果を受けて実現可能な方法を探っていくという方法にしたいと思う。

委員：創造館の問題がずっとある。チャンスがあるなら、建て替えとまではいかなくとも創造館の受け皿として使用できるような展示スペースを設けてはどうか。創造館とまではいかなくとも、可動式パネルなどで展示に合わせてスペースを区切れたりできると使用しやすくなると思う。美術館に作品発表の場があると環境的にも一番良いし、宣伝する際にも体育館で開催しているというより美術館で開催しているという方が良いのではないか。そうしたならば、コレクション展にもついでに足を運んでもらえると思う。

委員：以前、佐久市のアーティストでなくてはならないかと質問したときに、そうだという回答があった。そのため、佐久市で制作活動をしている人を応援できるような環境を整えば、すべてが丸になると思う。

委員：可動式パネルがあれば、小さい展覧会を開催したいときは区切ってでき、大きい展覧会を開催したいときは広く使える。そうした使いやすい環境にしてもらえると一番良い。そうしてもらえると創造館がなくなっても安心できる。このような意見を書けるスペースをアンケートに設けて欲しい。簡単なアンケートでも良いが、難しくないものであれば、みんなに呼び掛けて回答してもらえるようにしたいと思う。

委員：現在、展覧会を開催しようとなったとき、美術館という選択肢がない。これは問題である。何のための美術館なのかと思う。美術館で展覧会ができれば、鑑賞者も出品者も心構えが変わる。まずは、展覧会を開催しようとしたときの選択肢に「美術館」が入ることが必要だと思う。

委員：現在、視聴覚室を借りようと思ったときはどのようなプロセスで借りるのか。

事務局：基本的には条例で定められている。条例に条件と申請方法が定められており、それに則っている。条例に則って申請してもらえれば、1日7,630円で午前9時半から午後5時まで視聴覚室を貸し出している。条件としては、佐久市在住、もしくは在勤・在学の方。あとは、市内で活動する個人もしくは団体。皆さんが言うように、若干ハードルは高いかも知れない。しかし、値段に関しては他の施設と比べて、当時値段設定をしている。金額に関しては、見直しが必要であれば検討していく。

委員：値段については、借用される方は承知していると思う。問題は、自分たちが展覧会を開催したいタイミングで貸してもらえないということ。

事務局：今年は、視聴覚室を展覧会場として貸し出した実績がないが、偶然他の使用と被った場合は、残念ながら貸し出せないということがある。

委員：以前は1月から3月の冬の時期という縛りがあったように認識している。

事務局：現在は、そうした時期的な縛りはない。例えば当館の展示替え期間などの休館中には貸出できないということはある。

事務局：先ほど問13の説明で、美術館がやらなくてはならない事業だと説明を

したが、この中には現在できていないことも含まれている。全国の美術館では、端からこの項目を捨てているという館もある。当館が市民ギャラリーを持っていないのは、創造館があったからである。創造館は全国的にみても集客力のある、設備面も充実している施設で、そこで展示も可能であった。そうした中で美術館を設立するときに、コレクション展や企画展を開催する美術館を作ろうという意見になったのだろうと想像している。現在、展示スペースとして視聴覚室を貸し出せるようになってはいるが、本来はそういう意図で視聴覚室が設けられたわけではない。視聴覚室は多目的室として使用されており、その名の通り映画を見たり、会議を行ったりというところに重きを置いていた。しかし、使用していない期間が勿体ないということで、期間を限定して展示スペースとして貸し出せるようになった。そして、条例が整備されたが、市民ギャラリーとして見た場合は不完全な部分がある。例えば、大きな美術館にある市民ギャラリーは、常設展示室や企画展示室とは別のもとなっている。そこにはバックヤードがあり、いつでも展示替えができるようになっている。一般の来館者の目に触れないところから出入りできるようになっている。ここはそういう意味でも不完全。できる限りのことはやっていくが、すべてができるわけではない。

委員：問13は「このような事業をやっていたのを知っていますか」という聞き方にした方が良いかも知れない。美術館の事業について伝えるプラス聞くという方針が良いと思う。

委員：問13を見て、興味のある方は分かると思うが、普段美術館に来ない人にアンケートが届いたとき、絶対に分からないと思う。そのため、「こういう事業をやっていたのを知っていますか」という聞き方をした方が美術館の周知にもつながると思う。「こういうことをやっていたんだ」と知ってもらえるだけでも違うと思う。現在の「必要な事業は何か」という聞き方だと、全部丸する人もいると思う。知っているものに丸をつけてもらった方が応えやすいアンケートになると思う。

委員：今ある事業に印をつける、あるいはこれから付加えてほしい事業に印をつけるというようにしなければ、すべてに丸をつける方が出てきてしまうかも知れない。

委員：問13で美術館側が知りたいことは何なのか。

事務局：これは、本来ならば網羅していかななくてはならない事業である。しかし、すべてに力を入れられるわけではない。その中で望まれている事業と必要な事業をわけることで、美術館の進む方向性が見えてくるのではないかと思った。

委員：方向性が見えれば、どのようなスペースが必要か見えるということか。そうであれば、問 13.5 くらいに、事業の中でトップ 3 を選ぶとすればどれかというような設問を設けると分かりやすいと思う。

事務局：先ほど創造館が話題に上がったが、創造館の行く末がわからないということで問 13 の 8 番が気になったのだろうと思う。つまり、創造館の進退によって回答が変わってくるということか。

委員：創造館も現実的に見て、何十年も使用できないと思う。永久的なものではない。そうしたときに美術館にそういう機能を持った場所があれば、あまり困らずに活動を続けられる。

事務局：創造館の規模をそのまま美術館に持ってくるということは考えにくい。美術館もリニューアルの計画が定まってない段階で、実現までには時間がかかる。

事務局：現在、我々が実施しようとしているアンケートは無作為に抽出するため当然 10 代の方もいる。創造館の今後の在り方についてということはこのアンケートの中で固執されると困る。創造館の行く末を含めてこのアンケートに回答していただく必要はない。

委員：そうかも知れないが、折角再構築についてのアンケートを行うならば、そうしたことも考えに入れてほしいと思う。

事務局：それについては、創造館の方針が決まったときに考えなくてはならない時期がくるとは思うが、アンケートをとる段階で創造館の方針がどうなるか、市としての方針もある中で創造館の受け皿としての機能を見込んでということは、このアンケートにはそぐわないと考えている。単純に、この美術館の今後の在り方についてどう思うかを調査するためのアンケートである。

委員：実際に、ものを作って展示したいという人たちに対してはどうするのか。

事務局：それは構わないが、創造館の代わりとなる展示スペースとなってしまうと、今後の創造館の在り方が見通せず、県としての結論も決まっていないため対応は難しい。

委員：アンケートに「創造館がなくなった場合は」と記載する人はあまりいないと思う。しかし、折角のチャンスのため、そうしたことも組み込んでほしいと思う。

内情を知らなければ、創造館も視野に入れてアンケートに回答する人もいると思う。アンケートを作るならば、創造館のことも考えて作成して欲しい。

事務局：今回のアンケートですべてが決まるわけではなく、今後の美術館の基本的な方針を考えていくうえでの参考である。アンケートをすべて組み込んで美術館の方針を決定するわけではないが、今後再構築に向けてスタートしていく中で、今いただいた意見も貴重な意見だと思う。アンケートも色々な意見を聞くために実施したい。

事務局：アンケートは、回答する方が何を聞かれているのかがすぐ分かるというような内容にしなければならないと思っている。アンケートの内容は今いただいたご意見を参考に、関係各位精査し、調整をしながら作成したい。

委員：問6の「どのような手段で来館しましたか」という部分について、先ほどの話の中で学校から美術館に来館することが難しいという話があったが、その術を作らなくてはならないと思う。無料バスがあれば美術館に来館したいと考えている人の数が明確になれば、美術館としても話を進めやすいのではないか。たしか昨年、小諸市で、観光バスではないが読書の森まで行くルートがあったという話を聞いた。例えば問6.5で「観光地巡りバスルートで佐久市立近代美術館が含まれていたら利用しますか」という質問があっても良いかと思う。

事務局：バスという選択肢があるが、何を指しているのか。通常の路線バスは運行していない。

事務局：確かに「美術館前」というバス停はないが、「佐久医療センター」や「佐久市役所前」などの路線バスがある。
デマンドタクシーも含めて設問は見直す。

委員：1日3本でも観光ツアーバスがあったら良い。

委員：もっとわかりやすく、美術館側が聞きたい質問を直球に聞いてみても良いと思う。回答によって、「1000人のうちの800人が欲しいと言っている」というような結果が得られたら良い。

委員：たくさん、自由に書き込みをしてもらえるようなアンケートが良い。

(4) その他

ア 報告事項

「第2弾クラウドファンディング」の状況について

事務局：ア 説明

委員：どうしてこの作品になったのか。

事務局：様々な作品を調査し、その中で価値や劣化の状況から、このタイミングで修復しなくては鑑賞できなくなってしまう作品をピックアップし、今回は片岡球子《富士に舞う 陵王と還城楽》を修復することとなった。

委員：片岡球子と佐久市はどのような関係があるのか。

事務局：片岡球子は北海道の出身。本作品は、油井一二氏より寄贈を受け、収蔵した。必ずしも佐久に縁のある方の作品を修復するというのではなく、昨年度は横山操《雪原》という大作を修復しているように、作品の状態から修復するタイミングを決定している。今後も継続的に作品の修復を行っていく予定であり、来年修復する作品の調査も行っている。

委員：先ほどの SNS をポジティブなものだと思っているという意見は受け止めて欲しい。SNS の発信はどこで行っているのか。「いちじくん」か。

事務局：そうだ。クラウドファンディングの HP にも佐久市立近代美術館非公認

キャラクターとして「みなさんのご協力をお願いしたいジク！」と掲載した。いちじくんのXも以前はほとんどポストしていなかったが、現在は職員が2週間に1度は更新するようにしている。フォロワーも鰻上りとはいかないが、倍にはなっている。みなさまにも、ぜひフォローしてご覧いただければと思っている。

事務局：使える媒体がすべて使えないかという話となるとそうではなく、広報とも確認をしながら、可能な限り活用していきたい。

委員：クラウドファンディングについては、LINE でみた記憶がある。

事務局：今後とも支援をお願いしたい。

事務局：別件で報告がある。
(資料を配布し、説明)

委員：この資料にあるように、コミュニティとアートと、色々な人が交わる場所というのがトレンドになっていると思う。美術館のアンケートが、こうしたところに繋がっていくと良い。

事務局：立地が当館とは異なり、太田市美術館・図書館は駅前にあり、宮城県美術館は仙台駅前からは離れているが、スポーツ施設などがあり、普段とは違うことを求める人が集まる場所となっている。また、都会なだけあって交通の便が良く、地下鉄の駅もある。そうした点で、駅から離れていても交通の便は良かった。